

「ヤングフェスティバル」 --- 市民芸術祭・みどころ(1) ---

一般公募による「音楽とダンス」の祭典

出演予定者

・2月26日(土) 15:00 開演 市民会館大ホール

文化活動をしている中学生から20代の若者たちが、自分たちの力を発揮して、狭山のまちに「新しい文化の風」を吹かせようとしています。

市民会館のホールの舞台に立つことは、若者たちの活動の最初の目標になり、また舞台をつくる仕事に興味をもつ若者たちには、本物にふれる機会になり、文化の視点からまちづくりをする仲間が増えていくことでしょう。

当日は、ピアノ、ギター、和太鼓の演奏、コーラス、バンド、ミュージカル、ジャズダンスなど、たくさんの若者たちの発表が予定されています。
(責任者 岸野 智子)

和太鼓演奏	狭山茶つみ太鼓
コーラス	JULEPS (ジュレップス)
ギター演奏	高橋史典 ギターサークル弦
ダンス	ジュニア モンキーズ ジャズ キッズ ジャズダンス エムズ
バンド	SCAT VIVIAN (スカット ビビアン)
ピアノ演奏	根本佐和子
ミュージカル	劇団にこっとちゃ茶
ギターと歌	関谷大輝
司会	田崎智恵・飯島香里
照明	西武学園文理高等学校・演劇部

豆知識シリーズ(その14) 専門用語を一口で解説!

いけばなのはなし --- 草月流 ---

日本のいけばなには、各流派によって独自の造形があります。飾って美しさを賞美するだけに限らず、花をたしなむこと自体に、自然の叡智とかかわる深い心が秘められています。時代は移り、人の意識も変化しますが、いけばながどのような時代も生きつづけることができたのは、人の心を和ませる精神性のためと思われる。

「草月流」は、昭和5年(1930)に勅使河原蒼風(てしがはらそうふう)によって創流されました。

いつでもどこにでもいけられる、現代住居にとり入れやすい花のいけ方として普及し、特に戦争中には、花材不足の中、野の花、枯れ物なども用いて創作しました。

床の間に限らず、どこにもいけられるモダンな花は、第二次大戦後は、日本に駐留した外国の将校夫人たちにも好まれて国際的にも広く普及していきました。

基本の勉強を終えると自由花型になり、各自の個性をのびのびと発揮できるようなカリキュラムが組まれています。

蒼風(そうふう)家元は、ヨーロッパ各地を廻りデモンストレーションをし、発展に努力しました。二代目家元の勅使河原霞(てしがはらかすみ)は、父なき後、その志を継いで女性家元として繊細な美しいいけ花を広めましたが、志半ばに病に倒れ、兄の勅使河原宏が三代目を継承し、芸術家の目を通して竹を大量に使った造形などを披露し、注目を浴びました。その創造性とともに、植物のもつ不思議なエネルギーを感じさせる作品は、人に安らぎの空間をもたらしました。

現在、四代目・茜(あかね)家元が、伝統的な植物の美を現す活動とともに、子どもたちのためにジュニアクラスの指導にも力を入れています。

